

2025年度 第3回苦情処理委員会

日時 3月16日(月) 13:30~14:30

場所 ちどり保育園会議室

出席者 第三者委員(杉本芳彦)(井上准子)

園長(井上邦子)主任(大津宏美)

《議題》

1) 今まで(12月~3月)の経過報告

※ 「苦情処理委員会」にかける事例はなし。

① 苦情対応事例

◎ 乳児クラスの保護者より(2月)

おやつ後の15時半頃、室内でクルクル回って遊んでいた時に転倒し、床で口を打撲した。少し唇から出血していたが、歯にぐらつきはなく問題ないと判断し、応急処置をして夕方17時頃のお迎え時に母親に説明し了承を得た。翌日、ケガをした時点での連絡をしてほしかった等、対応についての苦情があった。

今後は、連絡だけでも先に入れる等、対応については再確認をした。

2) 感染症の対策と情報の提供

【冬の感染症】12月、1月にインフルエンザのA・B罹患者が園全体で流行した。

行事については、バス遠足でのマスク着用、もちつきの手洗い消毒等を徹底して行った。

【避難訓練】火災だけでなく地震、水害、不審者対策も想定し毎月、避難訓練を実施した。9月には、園庭で炊き出しの訓練も兼ねてご飯・カレーライスを作った。非常用おやつも提供し、今後の備蓄計画に繋げることができた。

11月の焼いも12月のもちつき、1月のどんど焼きは、園庭で火を焚いている。

強風等の火事に繋がらないよう、安全面には十分に気をつけていく。

【風水害】

・大雨による河川氾濫の危険がある為、今年度は、8月と10月の2回、原田2丁目に避難指示が発令された。1999年には床上浸水の被害経験がある。水害の歴史を職員、保護者とも共有し今後の防災対策に繋げている。

※ 災害時の対応については、情報収集、行政や保護者への連絡、避難時の対応、
備蓄品・持出品の確保、職員間の連携について確認した。

3) ヒヤリハット・事故対応 別紙参照

・事故の対応：子どものケガや事故についてはヒヤリハットも含め問題点を共有し、事故防止に努めた。

4) 保育方針の理解・ 保護者との連携

保育の中で大切にしたい事を保護者と共有していく。

◎ 行事のあり方と保育内容について

今年度は10月に開催した幼児クラスの「わくわく広場」当日に雨が降り対応が難しかった。保護者の予定もあり急な日程変更は判断も難しいので、今後の在り方については見直し検討が必要である。また、異年齢クラス10年を迎え、従来の年長児の活動内容についても年齢別ではなく、クラス単位での活動に移行していく中で、変更点も出てきている。保育の中で何を大事にしているか、子どもたちの姿を伝え、保護者に理解をしてもらうことが大切である。

◎ 2026年度 クラス編成の変更について

今年度、定員200名から160名に変更をした。少子化など子どもを取り巻く状況の変化により、職員配置の見直しも必要となっている。それに伴い、2026年度は幼児クラスを4クラスから3クラスに変更する。

保護者には1月に説明会を開催し、丁寧に説明していくことで理解が得られた。新しいスタートとなるが、園と保護者と連携をとり、子どもの姿を伝えながら保育を創っていく。

～共に子育てをしていく関係づくりを！～

・外国籍の子どもも増えてきているので、保育の中でも異文化理解が必要になっている。宗教食対応については、対応に必要な園児が増えている事と個々に対応が異なるために誤食の可能性が高くなってきている。
再度、対応の基準を見直し、保護者にも理解をしてもらい安全な給食を守る。

・障がい児保育とあわせて、一人ひとりを尊重した保育を追求していく。

・、育児支援、保護者の心のケア、虐待、
異文化コミュニケーションの対応
行政や専門機関との連携

5) 地域との関係づくり

- ・次年度は園長交代もあるが、地域の中の保育園として民生委員や社会福祉協議会とも、引き続き連携していく。

6) その他

- ・園長交代に伴う新しい体制について